令和　７年度　　園評価書

園番号　11　　園名　　西奈こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
健康で明るい子	夢中になって とことん遊ぶ ～２年次～	自分で探す、選ぶ、決めることを通し 自分なりの思いをもっている	・子ども主体を意識した環境構成を継続して行ってきたことで、子どもたち自身で遊びに必要な物を探したり選んだりすることができるようになっている。まだ「〇〇やっていい？」と保育者に確認することもあるが、「〇〇やりたい」と思いを表現する姿も増えてきている。 **問９保護者A74%Ｂ26%　園A20%B80%**	B	A	・職員の評価は肯定的な意見が多かったが、今年度の職員不足（正規２名育休・１名私傷病休暇）から十分な環境構成が難しかったと感じ、職員のB評価が多かった →人手不足の中での評価でも、よいと思われたのでA評価とした。人手不足を訴えるならばＣ評価にした方がよいと思われる ・遊びの継続性や拡張性が乏しい理由を多角的に分析した方がよいと思われる。支援の必要なお子さんもいらっしゃると思うので、実態を把握した上での評価が望ましい	・考える力や「やってみたい」という気持ちは育っているが、「その後の遊びの続きや広がりになりにくい」という意見が職員からあがっていた。引き続き、子ども主体を意識した環境構成を行っていく中で、子どもの心が動いた瞬間をを捉え、保育者のかかわりや声かけ、環境の再構成について考えていく ・保育者が一人一人の子どもの姿を捉え、子どもが主体的に遊ぶための援助について考えていくために、発達に必要な経験や年齢に合わせた遊びを指導計画等の中で丁寧におさえ、子どもがじっくりと遊び、考えることができるような遊びの見通しをもつことを大切にしていく
		様々な方法で思いを伝え合いながら、 保育者や友達と一緒に遊ぶ	・様々な活動を経験する中で、思いを伝えたり意見を出し合ったりする姿が増えている。面白いことや、何かを発見した時に保育者や友達に伝えたり、思いを共有したりして遊びを工夫する姿が増えてきた。反面、保育者を求めたり泣いて訴えたりする姿も見られる **問４保護者A81.2%Ｂ18.4%　園A30%B70%**	B	B		
		試したり工夫したりしながら「もっとやってみよう」と好奇心を深めている	年少・友達がやっていることに興味を持ち、やってみようとする姿が増えてきている。できることが増え、試してみたり納得するまでこだわって工夫したりする様子も見られる 年中・友達とイメージを共有しながら楽しむ姿がある。「こうしてみる？」と思いを伝え合いながら、何度も繰り返したり次の楽しさを考えたりする姿も見られる 年長・「まずはやってみよう」とチャレンジし、自分や友達と考えながら、試したり工夫する姿が増えた。自分たちでできたという自信から「もっと」という意欲が高まっている **問1保護者A74%Ｂ26%　園Ａ20%Ｂ80%**	B	A		

Ⅱ　全体的な計画に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	発達をとらえた指導計画が作成され、実践している	・子どもの姿を振り返り、遊びのつながりや育てたい姿を捉えて発達に見合った活動ができるよう月案を作成した。職員の欠員が増え、話し合う時間を設けることが困難となったが、クラス内の職員間で共有し実践していった **園A30%B70%**	B	B	・遊びの継続性や拡張性を求めるのならば、月案ではなく、期の指導計画が望ましい。職員不足を考えると、月案は行事予定のみとして、期の指導計画と週案でいってはどうか ・１号認定児は、普段他児と生活する機会が少ないので、こども園で友達と意見を出し合ったり協力したりして活動を進める機会が大切なものだと感じる ・食育について保護者への過剰な情報提供は必要ないと思われる。ネットをＱＲコードで紹介する程度でよいのではないか ・食育は家庭と連携することも重要なので、園での取り組みを紹介して、家庭でできることを伝えていくこともよいのではないか ・外販給食をハンディを感じる職員がいる中で、日々の食育活動の重要性について考えていく必要がある。また、「毎日がお弁当」という利点を最大限に活かした活動を積極的に取り入れていきたい ・小学校でも、特別な支援が必要な子どもたちに対して、『ラビの会』のようなことを実施している。子どもの特性に合わせたかかわりや配慮をするうえで、一人一人の育ちを見守っていきたい ・ドキュメンテーションの意味を再考してほしい。ドキュメンテーションは保護者への報告ではなく、対話を促進するためのツールである。保育が適正に行われているのかを保護者にチェックしてもらうもの。吹き出しは子どもが発言したものなのか、心の中の子どもの声なのかが不明確。実態把握をしっかり行わないと、発言したかのように誤解し、高度なことを求めすぎてしまう ・西奈小学校は、橘・北沼上・あゆみ・西奈からの子どもがほとんどを占めている。その中で、入学前に園児同士の交流があることは子どもたちにとって不安を取り除き、安心につながるのではないか ・小学校では、１年生スタートカリキュラムとして１５分の授業を２コマにしている。８年度はプレクラスとして１か月間、子どもの様子見守ったうえで、ゴールデンウイーク前に本クラスを確定して発表する	・子どもの姿を捉え、次月につながる遊び環境について具体的な内容となるよう月案検討を行い、職員間で共有していく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	教育時間と教育時間外の遊びの違いに配慮している	・１号と２号の保育時間の違いを考慮しながら、教育時間と教育時間外の活動内容を決めていった。また早番・遅番保育では、保育時間の違いや発達の差に配慮して安心して過ごすことができるようにした。個々の活動の充実や異年齢での活動を楽しむ環境づくりを心がけ、環境を見直していった **園A30%B70%**	B	B		・遊び環境を定期的に見直し、早番・遅番保育の内容を充実させるために、令和8年度は「延長保育」を分掌に取り入れていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	遊びが継続する環境の再構成を子どもと行っている	・「準備から片付けまでを子どもたちと行う」「子どもが創る園生活」を保育者が意識しながらかかわったことで、子どもを主体とした環境構成となっていった。子どもの心の動きを捉えて環境の再構成を行っていくが、「遊びが継続していかないという」声も聞かれる **園A35%B55%Ｃ10%**	B	B		・月案検討や遊び改善構想の日々の手立てを通して「もっとやってみよう」とする子どもたちの姿につながるようにしていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	ヒヤリハット記録から周知改善をしている	・ヒヤリハットがあった時には、毎朝の打ち合わせで報告することで全職員が共有できるようにした。また毎月ヒヤリハットを集計して発生時間や怪我の傾向を分析したことを職員会議で報告、共有して事故防止に務めるようにした。 **園A55%B45%**	A	A		・次年度は保育者の安全管理から、子ども自身が命を守ろうとする習慣を身に付けることが出来ることを目指して行く
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	子どもが食への関心を高める環境となっている	・米作りの経験や自分たちで栽培したものをクッキングに取り入れ、旬の味を味わうなど、子どもの興味関心に合わせた食育活動を実施した。子どもたちは楽しみながら参加し、苦手なものでも食べようとする姿を見せ、「次は〇〇を作ってみたい」という意欲も育ってきている **問８保護者A86.8%Ｂ7.7%Ｃ5.5%　園A67%B23%C10%**	B	A		・園での取り組みついて、食育だよりで他学年の実践の紹介やレシピの紹介・栽培方法などを知らせたり家庭でも興味を持って取り組みやすい内容について配信を行ったりすることで園と家庭が両輪となって食への関心を高められるようにしていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	支援児のグループ活動（ラビの会）を実施し、子ども理解や援助について具体的に考えている	個々の子どものあらわれを捉えて、特別支援の会『ラビの会』を企画し、それぞれのねらいを考えて実施した。そこで見えてきた課題について担当者が検討し、次の企画を作成して実施することを継続して行った **園A75%B25%**	A	A		・特別な支援が必要な子どもへのかかわり方について会議に取り入れ、支援の方法について全職員で共有できるようにする ・「ラビの会だより」の発行や保護者の参観を取り入れ、園での取り組みについて発信していく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	職員会議や園内研修での学びを共有して職員間の連携を強化する	園内研修において、公開保育や事前研・事後研の全職員参加を目標に、役割や時間配分を見直した。「自分の言葉で保育を語る園内研修」として、活発な意見交換ができるようにグループ分けを行い、ねらいの達成や日々の手立てについて検証した **園A62.5%B37.5%**	A	A		・引き続き、公開保育全職員参加の中で、「自身の保育を語る」ことができるよう学びを深め、どのよう環境やかかわりが必要なのか考えていくことできるようにしていく
6 研　修	(1)研修体制の充実	研修を通し、全ての職員が重点目標・研修テーマについて考えて援助をしている	・遊び改善構想の日々の手立てについて確認し、色分けをして日誌に記入することで保育を振り返り、子どもの気づきに対するかかわりや環境の再構成について考えていった。見えてきた課題や改善点を意識して保育に取り組んでいくが、職員間での共有が難しいこともあった **園A33%B67%**	B	B		・正規、非正規の差なく、園におけるすべての職員が重点目標や日々の手立てを共有し、同じ方向を向いて子どもたちに関わっていくことが出来るようにしていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	友達と関わりをもったり、発想を広げたりする環境構成となっている	年少・室内外の遊びの継続性を意識して可視化した上で環境構成を行った 年中・子どもの興味を捉えた環境コーナーを設け、同じ目的を持った友達と遊びが広がるように環境の工夫を行った 年長・子どもたちの興味関心から遊びを広げられるよう、やってみたくなるような働きかけを投げかけていった　**園33%B67%**	B	A		・各学年の遊び環境図の可視化を行い、全ての職員が今の子どもの遊びを把握して環境構成を整えられるようにしていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	参加会や面談、登降園時に子どもの姿を直接、保護者に伝えている	・毎日のドキュメンテーションの配信で、今の遊びの様子や子どもたちの姿について発信している。その中での一人一人のあらわれや育ちについて、保護者とコミュニケーションを図りながら伝えるようにしている。11月に保育参加会、12月より２月に面談を実施、子どもの姿のついて共有した **問10保護者A73.5%Ｂ25.2%　園A75%B25%**	A	A		・子どもたちの遊びの経過について保護者が理解できるような掲示やドキュメンテーションを配信する。また、継続して保護者との直接に対話を他施設にしていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣校園と目的を明確にした園児の活動を行い、職員間で育ちの連続性を考え情報共有がされている	・北沼上こども園との年長児同士の継続的な交流の中で、子どもたちの姿や育ちについて職員間で共有することができた。小学校への段差のない生活を迎えるための取り組みとして、子どもたちは就学に向けて期待をもつことができる機会となった **問7保護者A84.2%Ｂ15.8%　園A37.5%B52.5%**	B	A		・引き続き、こども園の園児や職員同士の交流を通して子どもの育ちについて理解を深めることができるよう、年間計画に取り入れ実施する ・施設利用のほかにも、子どもたちが小学校へつながっていることを知り、理解を深める機会を作っていきたい
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の園として親しまれるよう、地域との交流や様々な人と関わる機会を作る	・田植えや稲刈り、お話の会、子育てサロン、環境学習参加など園内外の活動を通して様々な人と関わる機会を行った。おしゃべりサロンでは、近隣の未就園児を持つ保護者の方に楽しく参加してもらえるような企画を考え、在園児も参加する機会も取り入れ園の様子を知ってもらう機会とした **問7保護者A84.2%Ｂ15.8%　園A57%B43%**	A	A		・西奈地区への理解を深め、地元を愛する心情を育む活動を今後も継続して行っていく。地域を知り、遊びに取り入れていく「西奈ＪＯＢ」を年間計画に取り入れるため、地域や保護者に発信し力添えを得ながら実施していく